

新潟市立新津第二小学校 	校章「ひまわり」 	学校データ 【学級数】 16 学級 【児童数】 371 人 【地域教育コーディネーター】 有
---	--	--

地域とつながり 夢を叶える「おかえり＊プロジェクト」

1 はじめに

当校は、昭和 22 年 4 月に創立。校区には新津川、秋葉山などがあり、自然に恵まれている。

令和元年度、日本河川協会より新津川の環境保全の取組で表彰されたことをきっかけに、二つのプロジェクトを教育課程に位置付けた。「おかえり＊サケプロジェクト」と「おかえり＊灯りプロジェクト」である。プロジェクトを通して、子どもたちが・地域とつながり、夢や目的をもって生きる姿を目指している。

2 取組の実際

(1) おかえり＊サケプロジェクト

- ① 4 年生・・・能代川サケマス増殖組合よりサケの卵をいただき、稚魚を育てて新津川に放流する。サケの生態や価値、飼育方法について調べる。



図 1 新津川にサケの稚魚を放流する

- ② 5 年生・・・新潟薬科大学の協力を得て、新津川の水質調査と生物調査を行った。その結果を基に、県知事をはじめ、関係機関に新津川の水質改

善を依頼する手紙を送り、河川整備工事を実現した。

- ③ 6 年生・・・新津川の環境保全を呼び掛ける看板とポスターをデザインした。地域の協力を得て新津川岸に 2 枚の立看板を設置した。

(2) おかえり＊灯りプロジェクト

体育館に約 400 個の灯籠を展示し、新津川の環境保全を呼び掛ける取組である。「サケの稚魚が広い海で大きくなって新津川に戻ってきますように」という子どもたちの願いと、「子どもたちが広い世界で大きく成長してこの町に戻ってきますように」という地域の願いを込めている。

- ① 小学校 1 ～ 3 年生＆近隣の幼稚園児（紙灯籠）・・・和紙に絵の具を使った造形遊びで模様を付け、夢や願い事をかく。
- ② 4 年生＆近隣の幼稚園児（壁灯籠）・・・日本画家の長沢明氏を招聘し、3 × 5 m の和紙にサケを見守る生き物を描いて壁灯籠を作



図 2 壁灯籠ワークショップの様子

成した。

- ③ 4, 5年生(箱灯籠)・・・新潟大学の協力を得て, LED 電球を使って作成。新津の街をイメージし, 積み重ねて展示した。



図3 光の3原色で形や色を工夫する

- ④ 6年生&新津第五中学校美術部(サケ灯籠)・・・立体的なサケの形の灯籠を作成。6年生は他にも泡灯籠の作成, ダンスパフォーマンスの衣装デザイン, ナレーションでプロジェクトを運営した。

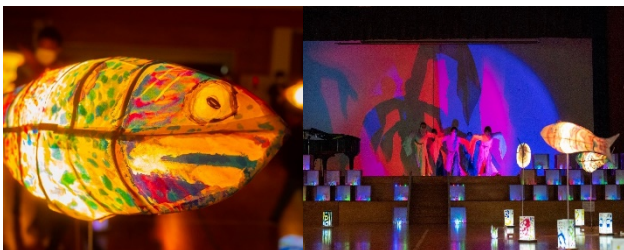


図4 サケ灯籠とダンスパフォーマンス

地域の方々と保護者が中心となって展示を行い, 10月24日当日の点灯式では, 秋葉区長をはじめ来賓も地域の方も多数訪れた。秋葉区在住のコンテンポラリーダンサーと, 秋葉区勤務のジャズピ

アニストがダンスパフォーマンスを披露した。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

(1) 知識・技能

「おかえり＊サケプロジェクト」では, 4年生のサケの飼育, 5年生の環境調査の体験を通して知識・技能を身に付けた。6年生では4, 5年の総合学習を生かし, まとめとして主体的に地域に呼び掛け実行する姿があった。

(2) 学びに向かう力・人間性

「おかえり＊灯りプロジェクト」は, 今回で3回目となる。回を重ねるごとに自分たちの思いや願いを地域に伝えることができた。特に6年生は, 灯りプロジェクトの運営を担い, 主体的に地域のためにできることを考え, 夢や思いを実現しようとする姿を見ることができた。伝えることで地域の協力を得たり, 社会を動かしたりすることができた。

4 おわりに

今年度の二つの取組は, 子どもたちが地域や社会に働き掛けることで, 「新津川にサケが戻ってきますように」という願いを実現する第一歩となった。自分たちの力で何かを成し遂げた経験は, 将来生きる力となって役立つと考えている。



図5 灯りプロジェクト全景 多くの地域の方が来校し, 川に見立てた空間を楽しんだ